

## はじめに

### 1. 小委員会の設置とその後の活動

「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会」は、平成 19 年に教育企画・人材育成委員会の中に設置された小委員会であり、成熟したシビルエンジニア所謂シニアエンジニアの活性化方策について研究を行っている。

平成 19 年度、平成 20 年度の 2 年間の調査・研究の成果は「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 20 年度報告書」、平成 21 年度の活動の調査・研究の成果は「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 21 年度報告書」を発刊し、報告している。

この間に平成 20 年 5 月に「成熟したシビルエンジニア、その活性化に、向けて」と、平成 21 年 5 月に「“NPO 活動” その多様な展開—シビルエンジニアに期待されること—」と題するシンポジウムを開催してきた。

平成 22 年度は、4 年間の研究を一応締めくくることを前提に研究を行なってきた。本年度は、詳細は後に述べるが、項目だけ列記すると以下のような活動を行ってきた。

1. シンポジウムの開催
2. 人材結合システムの技術推進機構への提言
3. NPO 中間支援組織設立に関する理事会への提言
4. そして、本報告書「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 22 年度報告書」の発刊である。

### 2. 平成 22 年度の活動

#### 1) 3 つのワーキンググループの活動

##### (1) 人材結合支援システム及びソーシャルビジネス調査グループ

- ① 成熟したシビルエンジニア向けの人材結合システムの研究をおこなってきたが、その研究成果を「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 21 年度報告書」に掲載すると共に、その成果を土木学会技術推進機構にシニア会員へのサービス向上策として提言した。
- ② ソーシャル・ビジネスに関する研究は、前年度は中間段階での研究成果を前述の報告書に掲載したが、本年度はソーシャルビジネスの事例収集に加えて、シビルエンジニアが活躍できるソーシャルビジネスのモデル、ソーシャルビジネスの起業化の手順とその支援施策等を纏めて、本報告書に掲載している。

##### (2) NPO 調査研究グループ

- ① NPO の連携、ネットワーク化、土木学会の支援の可能性について研究する中で、「新しい公共」の担い手になる建設系 NPO の活性化が必要であるとの立場から、

理事会に「土木学会による建設系 NPO 中間支援組織の立上げと支援」の提言を行った(2010.11.19.)。

- ② 提言を更に具体化して報告するようにとの会長等の指示を受け、教育企画・人材育成委員会の中に「建設系 NPO 中間支援組織設立準備委員会」を立ち上げた。当小委員会の NPO WG のメンバーに加え、学識経験者、NPO 法人を実際に運営されている方々に委員やメール委員という形で参画していただき、平成 22 年 11 月から平成 23 年 4 月までの短期間に鋭意立上げに向けた準備を行っている。
- ③ 「建設系 NPO 中間支援組織設立準備委員会」の立上げの経緯までを本報告書に掲載した。設立準備委員会の成果の報告は「建設系 NPO 中間支援組織設立準備委員会報告書」として、別に発刊する予定である。

### (3) 役割り企画検討グループ

- ① 前年度の活動として、シニアエンジニアを活用するための方策を検討する中で、土木界そのものの活性化が必要であるとの結論に至り、そのために土木学会はシンクタンク機能を立上げて、20～30 年先を見据えた社会資本整備のマスタープランや海外展開施策を作り、広く社会に発信すべきであるとの提言「我国の土木界が活力を取り戻すために土木学会が果たすべき役割」を理事会に行った(2010.1.22.)
- ② この提言の具現化を企画委員会が担当することになり、今年度は、当小委員会役割り企画検討グループから企画委員会に委員兼幹事で 1 名を送り、シンクタンク機能の立上げに向けた議論に参画してきた。来年度には、シンクタンク機能を担う小委員会が発足する見込みである。
- ③ 本グループでは、「わが国土木界と成熟したシビルエンジニアの活性化推進の研究」として、企画委員会の下にできる新小委員会に引き継ぐつもりで、これまでの研究成果を整理したものを本報告書に掲載した。

## 2) 「前年度報告書 第 5 章 今後の活動計画について」で紹介した事柄の今年度の実施状況

### (1) シンポジウムの開催

平成 22 年 7 月 27 日(火)に土木学会講堂でシンポジウム「新しい公共、NPO そしてソーシャル・ビジネス ―その土木界における位置づけと展開―」を開催した。「新しい公共」を土木界としてどう受け止めるのか、その担い手をどう育てていくのか等について基調講演で東洋大学の根本祐二教授にお話頂き、アンカーとして土木学会の阪田憲次会長に土木学会の取り組みについてお話いただいた。

## (2) 土木学会誌への投稿

土木学会誌 6 月号に **CE レポート**：「わが国社会の持続的発展に対する土木界の役割」と **ピックアップ**：「成熟したシビルエンジニアの活性化に向けて 一小委員会のこれまでの活動と今後」として掲載した。

## (3) 土木学会への提言の実現化に向けた活動

前述のように、当小委員会の役割り企画検討グループメンバーから 1 名を企画委員会委員兼幹事として参画させ、シンクタンク機能の立ち上げに向けた議論に加わり、積極的な役割りを果たしてきた。検討のたたき台として「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 平成 21 年度報告書」を企画委員会委員には配布した。

## (4) 成熟したシビルエンジニア向けの会員サービスの向上策への参加

前年度に提案した成熟したシビルエンジニア(シニア技術者)向けの会員サービスの向上は、土木学会の予算措置がなされなかったため、残念ながら活動できなかった。

## 3. 本報告書の内容

本報告書は、前述の 3 つのワーキンググループの研究成果を纏めて、報告したものである。目次は以下のようになっており、各ワーキンググループの研究成果を第 1 章から第 4 章に整理した。

- 1) はじめに
- 2) 第 1 章 ソーシャルビジネス調査研究
- 3) 第 2 章 建設系 NPO 法人の現況と活性化方策の研究
- 4) 第 3 章 わが国土木界と成熟したシビルエンジニアの活性化推進の研究
- 5) 第 4 章 人材結合支援システム調査グループのその後の活動
- 6) おわりに

本報告書は、教育企画・人材育成委員会及び企画委員会の関係者に配布することを考えている。特に企画委員会でシンクタンク機能の立ち上げ等に向けて新たに立ち上げる小委員会で利用されることを願っている。

#### 4. 小委員会名簿

教育企画・人材育成委員会／成熟したシビルエンジニア活性化小委員会

平成 22 年度委員名簿

	氏名	所属	備考
委員長	内藤 堅一	パシフィックコンサルタンツ(株) 首都圏統括本部顧問	NPO
委員 GL	有岡 正樹	NPO 法人「社会基盤リサイクルマネジメント研究会」理事長	NPO
委員	駒田 智久	(株)エイト日本技術開発 顧問	人材結合、NPO
委員	田中 則行	(株)エイト日本技術開発	人材結合
委員	辻田 満	NPO 法人シビルサポートネットワーク代表理事	NPO
委員	西村 隆司	日経 B P 社建設局編集委員	人材結合
委員	日比野 直彦	政策研究大学院大学 助教授	
委員	松本 健一	(株)建設技術研究所東京本社	NPO
委員	水谷 進	パソコン技術管理(株) 代表取締役社長	NPO
委員	山崎 俊雄	南海カツマ(株) 東京支店技術部	役割り企画
委員	山下 正章	(株)長大内部統制室長	役割り企画
委員 GL	山田 孝治	日本工営(株) 中央研究所技師長	役割り企画
委員 GL	山登 武志	(株)建設技術研究所東京本社品質環境管理センター	人材結合
WG 委員	比奈地 信雄	NPO 法人 IT ステーション「市民と建設」	NPO

以上